

『新纂浄土宗大辞典』修正一覽表

令和2年9月1日版

・「新纂浄土宗大辞典」本体に挟みこんでお使いください。  
・WEB版はすでに修正を行いました。

項目	頁・段	誤	正
けいが【慶雅】	(377頁・3段)	康和三年(一一〇二)―。景賀、慶賀、鏡賀とも書く。東大寺、仁和寺、醍醐寺に居住した華嚴宗の僧。大納言の法橋、岡の法橋、醍醐の法橋ともいう。「摧邪論」を著して法然を批判した明恵の弟子。法然が弟子阿性房の紹介で南都遊学のときに訪問した。	康和三年(一一〇二)―。景賀、慶賀、鏡賀とも書く。東大寺、仁和寺、醍醐寺に居住した華嚴宗の僧。大納言の法橋、岡の法橋、醍醐の法橋ともいう。法然が弟子阿性房の紹介で南都遊学のときに訪問した。
こはやしぎやう【小林義道】	(489頁・3段)	明治三年(一八九〇)七月二日―昭和四五年(一九七〇)八月二日。精蓮社進善堅阿頼。京都東山に智相堅雄の長男として誕生。	明治三年(一八九〇)七月二日―昭和四五年(一九七〇)八月二日。精蓮社進善堅阿頼。京都東山に知相堅雄の長男として誕生。
しょうじきげ【正食偈】	(742頁・4段)	「若飯食事 当願衆生 禅悦為食 法喜充滿」。	「若飯食時 当願衆生 禅悦為食 法喜充滿」。
しょうよくちそく【小欲知足】	(832頁・3段)	しょうよくちそく【小欲知足】 欲望が少なく、わずかなもので満足すること。	しょうよくちそく【少欲知足】 小欲知足とも。欲望が少なく、わずかなもので満足すること。
しよえこうほうかん【諸回向宝鑑】	(839頁・1段)	著者は必夢、雅印に讚誉龍山と捺し、その事蹟などは不詳である。	著者は必夢、雅印に読誉龍山と捺し、その事蹟などは不詳である。
じんしん【深心】	(869頁・3段)	十方恒沙の諸仏一切の凡夫決定して生ずることを得ることを証誠したまうことを(聖典二・二八九/浄全二・五六)と明言する。	十方恒沙の諸仏一切の凡夫決定して生ずることを得ることを証勸したまうことを(聖典二・二八九/浄全二・五六)と明言する。
ひつむ【必夢】	(1244頁・3段)	一七世紀頃、生没年不明。讚誉龍山。江戸時代初期の学僧。	一七世紀頃、生没年不明。読誉龍山。江戸時代初期の学僧。
むしょう【無所有】	(1430頁・4段)	さとりの内容の一つである中道は無所有でなく、具体的に小欲知足をいう。これは最低限の所有だけを許す考え方であるが、無所有を厳格に守るジャイナ教徒は、小欲知足をも非難した。	さとりの内容の一つである中道は無所有でなく、具体的に少欲知足をいう。これは最低限の所有だけを許す考え方であるが、無所有を厳格に守るジャイナ教徒は、少欲知足をも非難した。
知足		同「少欲知足」(多田孝正博士古稀記念論集 仏教と文化) 山喜房仏書林、二〇〇八) ↓小欲知足	同「少欲知足」(多田孝正博士古稀記念論集 仏教と文化) 山喜房仏書林、二〇〇八) ↓少欲知足